

基本構想





1

むらづくりのキャッチフレーズ

enjoy SHINTO ~暮らしも遊びも仕事も~

「enjoy SHINTO ~暮らしも遊びも仕事も~」は、村民一人ひとりの生き方や価値観を尊重し、誰もが自分らしく、前向きに日々を楽しめる“むら”を目指すキャッチフレーズです。

限りある資源の中でも、行政としてできることに真摯に取り組むとともに、村民、企業、団体、地域が力を合わせ、支え合い、応援しあえる、やさしさにあふれた社会の実現を目指します。

人生にはうれしいことも、つらいこともあります。その中に“楽しさ”を見いだしながら、自分らしさを発揮できる環境づくりを進め、暮らし・遊び・仕事のすべてが充実する持続可能なむらづくりを推進します。



妊娠・出産、学び、働き、子育て、そして心豊かな老後へ。人生のどのステージにおいても、行政は村民一人ひとりの日々の寄り添い、変化するライフスタイルや多様な価値観を尊重します。「enjoy SHINTO ～暮らしも遊びも仕事も～」の理念のもと、村民一人ひとりが自分らしい色で人生を描ける環境を創出します。

人生100年時代のライフデザイン

榛東村では、すべての世代が自分らしく生きがいを持ち、安心して暮らし続けられる地域を目指します



福祉・医療

教育

産業

生活基盤

防災

地域づくり

暮らしの基盤を整え、誰もが自分らしく輝ける未来を創る。

道路、水道、スポーツ施設、福祉、農商工業や防災など、これらは日々の暮らしを支え、村民の可能性を広げる大切な土台です。世代を問わず、誰もが安心して挑戦し、自分らしく輝ける、そんな活力ある未来を目指し、確かな基盤づくりを進めます。

2

人口の将来展望（人口ビジョン）

榛東村の人口は、わずかながらも減少傾向にあり、将来にわたって減少していくことが予測されています。今後、榛東村の実情に即した人口減少対策を積極的に進めることを前提に、以下の仮定のもと、人口の将来展望（令和42（2060）年の人口の目標）を示します。

自然増減¹⁰に関する仮定条件

合計特殊出生率¹¹が、令和22（2040）年に1.8まで上昇し、その後は1.8で推移すると仮定します。

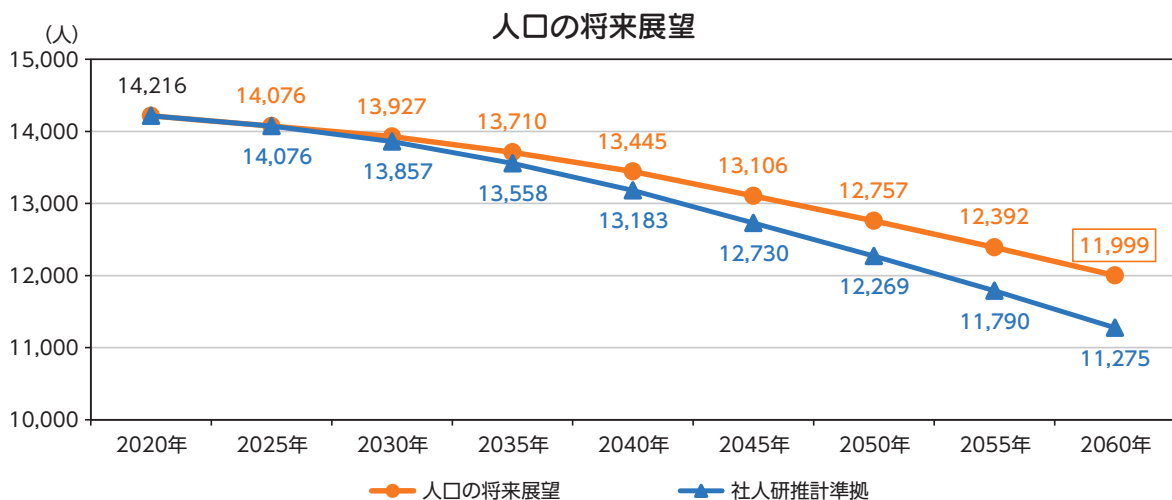
社会増減¹²に関する仮定条件

国立社会保障・人口問題研究所の「日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」に準拠して行われた推計（以下「社人研推計準拠」という。）の移動率で推移しつつ、令和7（2025）年以降、1年当たり以下の類型の世帯の転入が追加されると仮定します。

- 「20～24歳の夫婦（男女）、0～4歳の男児or女児」（合計3人）×2世帯
- 「25～29歳の夫婦（男女）、5～9歳の男児or女児」（合計3人）×2世帯

この仮定条件に基づく推計による榛東村の人口の将来展望は、以下のとおりです。

令和42(2060)年 約12,000人



資料：デジタル田園都市国家構想実現会議事務局配布のワークシートより作成

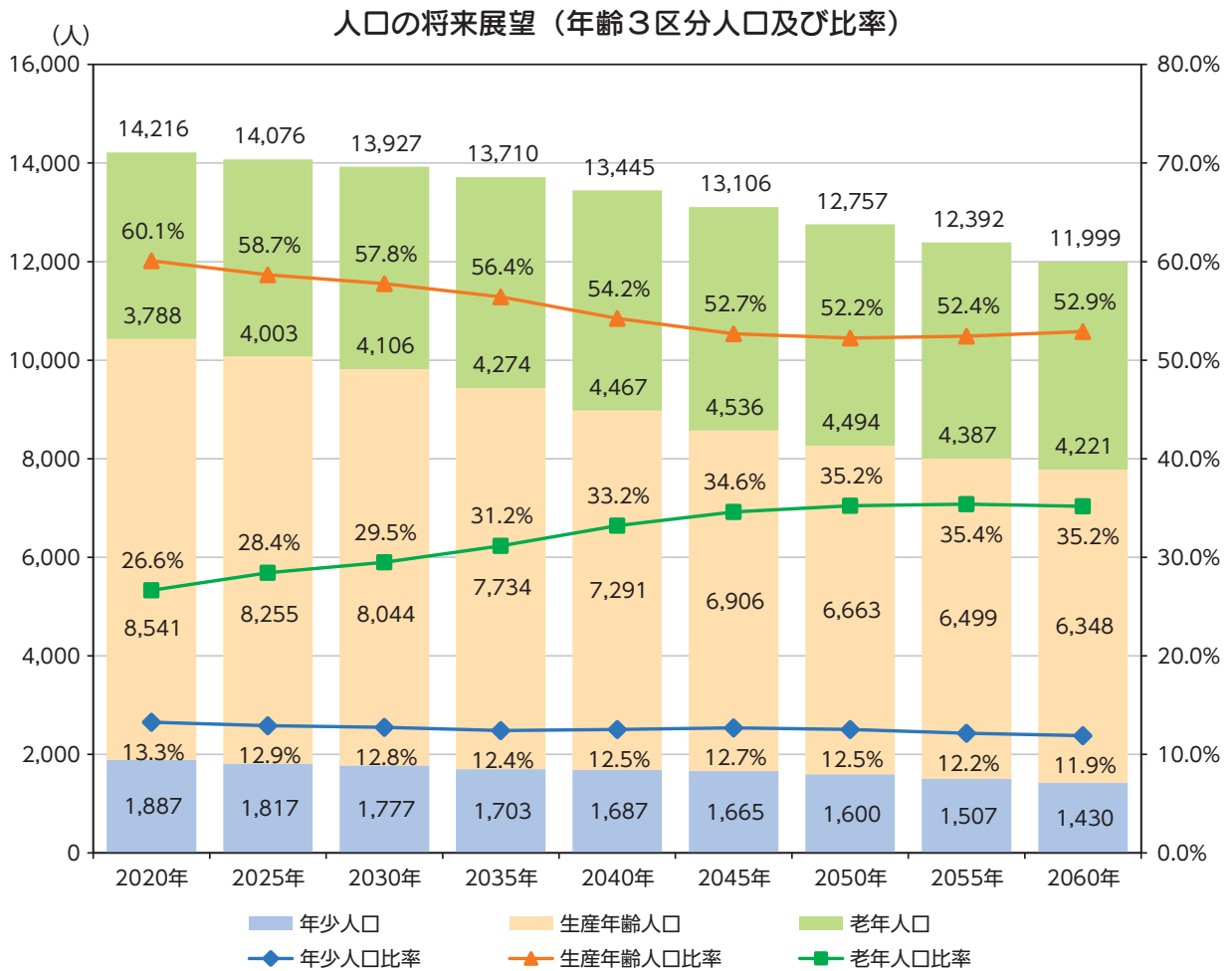
¹⁰ 出生数と死亡数の差による人口の増減です。

¹¹ 一人の女性が生涯に産むと想定される子どもの数です。

¹² 転入と転出による人口の増減です。



人口の将来展望を年齢3区分別にみると、年少人口は緩やかなペースで減少し続け、年少人口比率も緩やかに低下し続けます。生産年齢人口は徐々にペースを緩めながら減少を続けますが、生産年齢人口比率は令和32（2050）年を境に上昇に転じます。老年人口は、増加傾向から令和27（2045）年を境に減少に転じ、老年人口比率は令和37（2055）年まで上昇し続け、その後減少します。



資料：デジタル田園都市国家構想実現会議事務局配布のワークシートより作成



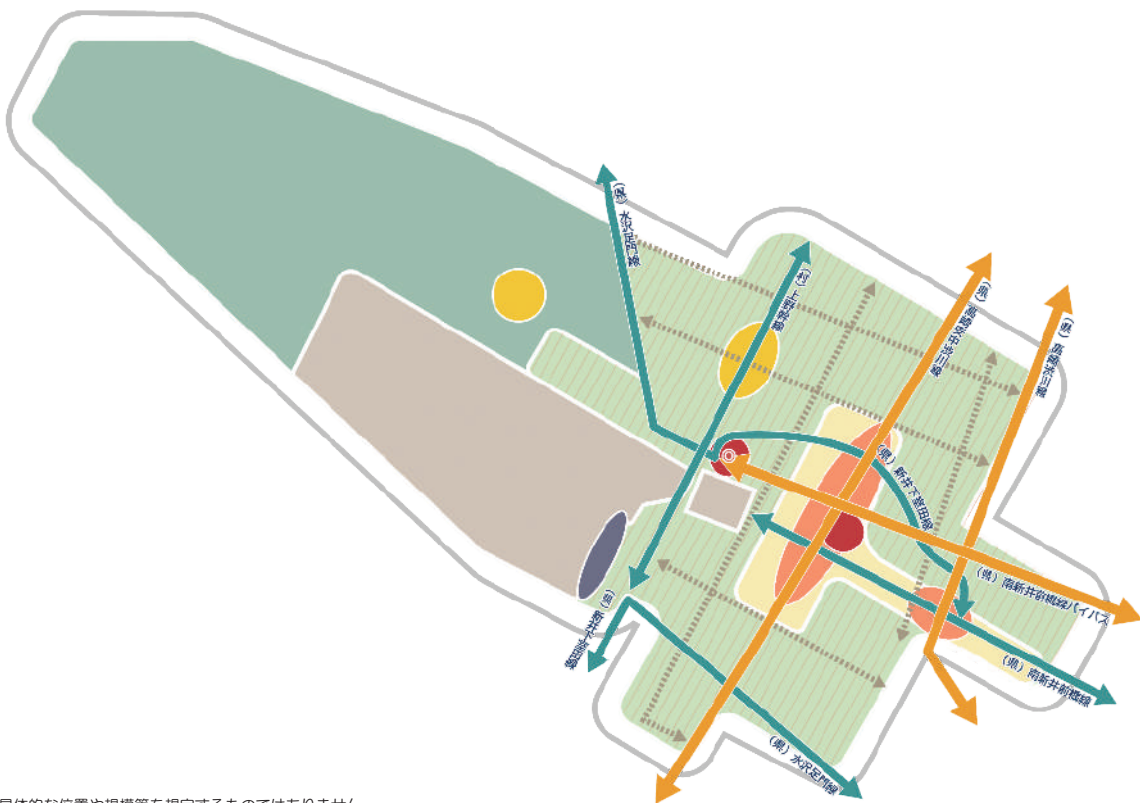
3

将来都市構想図

榛東村は、雄大な榛名山の自然、先人が築いた歴史・文化、そして実り豊かな大地に恵まれた美しい村です。この恵まれた環境を活かしながら、都市的な利便性と温かなコミュニティが調和する、次世代に誇れる村を計画的に創り上げていきます。

総合計画で描く将来像を、実際の「まちの形」として実現するため、都市計画法に基づく「都市計画マスタープラン」で、榛東村を3つのゾーン、4つの拠点、3つの交通軸に整理し将来都市構想像として描きます。ソフト（施策）とハード（都市空間）の両面から調和のとれたまちづくりを進め、誰もが快適に暮らせる地域社会の実現を目指します。

将来都市構想像 [概念図]



※具体的な位置や規模等を規定するものではありません

ゾーン	拠点	交通軸	その他
住まいと暮らしゾーン	生活拠点	広域幹線軸	防衛省施設用地
人とみどりの共生ゾーン	交流拠点	幹線軸	榛東村役場
自然環境ゾーン	地域防災拠点	生活軸	
	工業拠点		

資料：榛東村都市計画マスタープラン

ゾーン

住まいと暮らし
ゾーン

主に住宅地で構成される区域を位置付け、商業や公共施設など日常生活に必要な機能がバランスよく配置された、利便性と快適性に優れたゾーンの形成を図る。

人とみどりの共生
ゾーン

住宅地や農地が共存する区域を位置付け、みどり豊かでゆとりと潤いのある、暮らしと自然が調和したゾーンの形成を図る。

自然環境
ゾーン

保全すべき森林で構成される区域を位置付け、良好な景観と自然の魅力をかきた、やすらぎのあるゾーンの形成を図る。

拠点



生活拠点

既存の用途地域を中心に、周辺住民の日常生活に必要な施設を集積させ、交通利便性の向上と併せて、快適で利便性の高い生活拠点の形成を図る。



交流拠点

創造の森やしんとうふるさと公園の周辺を中心に、村外からの利用も見込まれる観光・レクリエーション施設を集積させ、村全体の魅力向上とにぎわいを創出する拠点の形成を図る。



地域防災拠点

役場と新設された防災中枢機能施設を中心に、地域の防災活動の中枢となる拠点の形成を図る。



工業拠点

既存の工業拠点を中心に、工場など産業施設を集積させ、地域経済を支えるとともに、環境との調和を図りながら持続可能な産業拠点の形成を図る。

交通軸



広域幹線軸

都市の骨格を形成する軸として位置付け、沿道の住環境や景観に配慮した適切な土地利用を誘導するとともに、周辺の拠点と連携した広域的なネットワークの形成を図る。

高崎安中渋川線
高崎渋川線
南新井前橋線バイパス



幹線軸

広域幹線軸を補完する軸として位置付け、各地域や拠点間の有機的な連携と回遊性を高めるネットワークの形成を図る。

一般県道
上野幹線（村道）



生活軸

住民の生活を支える地域内の軸として位置付け、狭隘道路の計画的な拡幅や補修を通じて、安全で利便性の高い交通ネットワークの形成を図る。

主要村道

4

10年後に目指す基本目標（施策の大綱）

むらづくりのキーワード「enjoy SHINTO ～暮らしも遊びも仕事も～」を要に、次の6つの基本目標を設定し、10年間取り組んで行くこととします。

基本目標1

未来にワクワク、「やってみたい!」を伸ばすむら （子ども・学び）

出産・子育て支援の拡充と、多様な保育環境の整備により、すべての家庭が安心して子育てできる体制を構築します。あわせて、教育やスポーツ・文化を通じて、子どもも大人も生き生きと成長できる地域環境を整えます。



基本目標2

ホッとする、みんなのやさしさでつながるむら （健康長寿・暮らし）

高齢者、障がい者、子育て家庭など、誰もが安心して日常を送れるよう、福祉・保健・医療・生活支援を充実させます。また、情報化や行財政改革を進め、住民参加と協働による持続可能な地域運営を目指します。



基本目標3

くらしにちょうどいい、心地よいむら （地域生活・住む）

道路・上下水道・ごみ処理などの生活基盤を計画的に整備・更新し、誰もが暮らしやすい生活環境を確保します。あわせて、土地利用や住宅政策にも配慮し、持続可能で美しい景観と暮らしやすさを両立します。



基本目標4

「働く」を楽しむ、自分らしくチャレンジできるむら
(働く・遊ぶ)

農林業、商工業、観光の振興を通じて、地場産業の活性化と雇用機会の創出を図ります。誰もが自分らしい働き方を実現できるよう、起業支援や職住近接の促進、ワーク・ライフ・バランスの推進にも取り組みます。



基本目標5

みんなで守る、安全・安心のむら
(環境・見守り)

自然環境や景観の保全とともに、防災・防犯体制を強化し、誰もが安心して暮らせる地域社会の基盤を整えます。地域ぐるみでの防災訓練や情報共有など、自助・共助・公助の連携を深めていきます。



基本目標6

未来へ紡ぐ、みんなで育てるむら
(未来投資・連携)

限られた財源と人材の中で、持続可能な行政運営を実現するため、計画的な財政運営と業務の効率化を図ります。また、住民や地域団体との協働を推進し、共に支え合う自治体経営を目指します。

